

理事長・院長就任に寄せて ①

「より患者さんに寄り添った法人・病院を目指して」

令和2年10月9日

印宮医師の理事長・院長就任に際し、抱負や目指す法人像をインタビュー形式で伺いました。
A4 1枚では紹介しきれませんのでシリーズでお伝えします。

Interviewee：理事長・院長 印宮 朗

Interviewer・発行：事務次長 平上 健一



本年9月10日付けで印宮 朗副院長が医療法人五紀会 理事長、室蘭太平洋病院 院長に就任いたしました。
本来であれば、就任早々に皆様にお知らせをすべきところ、ご報告が遅くなり大変失礼いたしました。

——故伊藤真義前理事長の急逝を受け、理事長・院長に就任されました。抱負を伺えますか？

■「継承」と「寄り添い」

まずは「**継承**」するということです。これまで伊藤先生が行っていた運営スタイルをしっかりと継承する。

そして「今まで以上に、より患者さん・入居者さん・利用者さんに寄り添った、ニーズに合った法人・病院」を目指します。
とすれば患者さんや入居者さんの「家族」に焦点が当たりがちですが、中心は「患者さん、入居者さん、利用者さん」です。
私達の仕事は患者さん、入居者さん、利用者さんなど様々な方との関わりの中で成り立っています。その方々は多様なニーズをお持ちです。より多様なニーズへの対応や支援が出来る法人・病院にしたいと考えています。

入院に焦点を当てると、私達は主に「急性期病院での治療を終え、治療やリハビリテーションの継続を目指される患者さん」をご紹介します。これは「西胆振地域のニーズであり私達の使命」として今後も継続します。

——高齢化社会が進行し、特に西胆振地区は地域特性として「入院出来やすい環境」にあります。当院に入院される患者さんの数もここ数年右肩上がりに増えています。

■「閉塞感のない入院」を考える

「慢性期病院への入院」＝「療養」という言葉は、ネガティブなイメージになりがちです。時に療養病院への入院は患者さんの視点で見ると「入院させられる必要悪的存在」になりやすいと言っても過言ではありません。「自分の親を入院させたい病院にしよう」「自分が入院したい病院にしよう」と言いますが、現状はどうでしょう？ 実際に入院する患者さんの視点に立つと入院は「出口が見えない」「閉塞感が強い」と感じていらっしゃるかも知れません。私達は医療従事者として患者さんの立場で「閉塞感のない入院とは？」を考え続けなければならないと思います。(続く)

